

自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記 19-18)

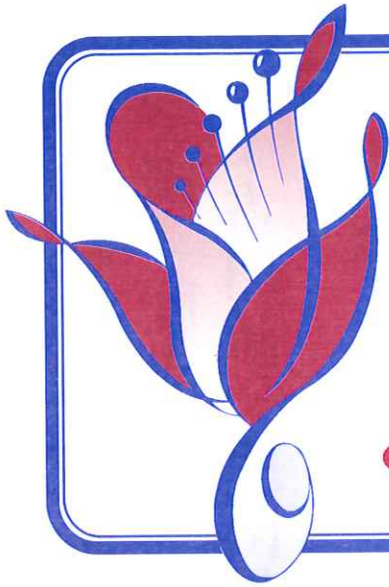
人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7-12)

ひびきあい

# HibikiAi

聖ヨハネ学園だより

発行：聖ヨハネ学園 〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1 TEL&amp;FAX072-687-0548



## コロナ禍に思う



高齢者・障がい者部門  
統括施設長  
北川 勝

昨年度は、皆様のお陰で無事に社会福祉法人聖ヨハネ学園創立130周年記念礼拝や記念事業等を無事終えることができました。

そして、いよいよ131年目に向けての事業をスタートさせていこうとしていた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大で、世界中は大変なことになっています。4月7日には大阪府に非常事態宣言が発せられて、連日テレビなどでは何十人何百人という方が新型コロナウイルスに感染したと報道されており、私たちのすぐ

近くまでその脅威が迫っています。

社会福祉法人聖ヨハネ学園には多数の施設がありますが、施設に感染が拡大するとその影響はとても甚大です。特に高齢者や障がいをお持ちのご利用者の多くは基礎疾患などをお持ちで、重症化するおそれもあります。職員も自分自身の感染の不安もさることながら、ご利用者が感染しないか、また職員自身が無症状の感染者となり媒体となってご利用者や家族へ感染させることにならないかと不安な気持ちでいっぱいだと思います。

聖ヨハネ学園が創設されてから昨年で130周年を迎えました。長い歴史の中では、今までにも幾度とな

く困難な状況が訪れましたが、神様が守ってくださいったおかげもあり、また、ご利用者を支える一人ひとりの職員の働きで困難に対応できたからこそ、無事に乗り越えることができ、130年の歩みがあったのではないかと思います。神様は乗り越えられない試練をお与えにならないという言葉があります。今回の困難な状況も職員が一丸となって立ち向かうことで乗り越えられると確信しております。ご利用者の生活を守る、そして、私たち職員の健康と生活をも守りながら、この困難に立ち向かうという決意で、これからも職員の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思えます。

最後に、職員の皆様の働きに心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

# 「学園 歴史の担い手」 古田誠一郎園長物語」その②



司 祭  
ペテロ竹林徑一

前回は、聖ヨハネ学園長に就任するまでの時代の「若き古田誠一郎」を紹介しました。久留島武彦と佐野常羽(つねは)という偉大な指導者と出会い、その薫陶を受けて30代を迎えた古田に、神様は新展開の舞台を準備されていたようです。

1929(昭和4)年5月、英国バークンヘッド・アローパークで開催された第3回世界ジャンボリーに、佐野常羽団長以下29名の日本派遣団員として、古田は渡欧しました。団長付の会計係を任じられたので、英語名「パーサー」に因んで「パーヤン」と呼ばれるようになり、終生の別名愛称となりました。多くの人に好かれる人柄が表われているようです。終了後、英国に残ってロンドンのギルウエア・トレーニングセンター

後任者を物色していました。責任者の大阪聖ヨハネ教会の柳原貞次郎牧師の証言では、牧師仲間の八木長老から人材候補の情報を得たと想像されます。

そして私には、ロンドンの街頭で再会し帰国後に神戸聖ミカエル教会牧師になっていた八代斌助長老も、古田を推したのではないかと思われ

ます。

再三の手紙、電報のやり取りと、2ヶ月の考慮を経た後、古田は聖ヨハネ学園長の申し出を受諾、翌1931(昭和6)年2月に来阪・就任しました。古田が、BSの専門家であり、英国で研修も受け実践的人物であること、子供好きで子供関係の仕事経験が豊富、聖公会の信徒であることなど持っていてこの器、神の恵みと評価されたようです。大阪府庁でも「ええ人を引っ張ってきましたな」と言われたそうです。この時、妻の一子さんも保母として就任、入所しています。そしてこの赴任を機に、少年団日本連盟嘱託の職を辞任する手続きをしています。いよいよ古田活躍の時が到来しました。

就任した聖ヨハネ学園は、その後1932〜33年にかけて行なわれる施設新築の計画・募金活動がすでに進行中でした。新園長の最初の取り組みとして、親のない子供達は日蔭育ちになりがちだという課題があり、

それを克服した人材育成をするため、いわゆる孤児院らしさが全くないような、外観・内容両面の施設の改善に着目し、最善を尽くしたと述べています。特に学齢期前の幼児教育の充実に熱が入れられ、ステージ付ホール、幼児用園舎・部屋の増築、モンテッソーリ幼児教育の思想・方法を取り入れたナースリー・スクール「保育学校」の開設などに示されています。

新来者、古田誠一郎および一子夫人は、大阪聖ヨハネ教会信徒と、社団法人聖ヨハネ学園園長(園父・園母)という2つの顔・立場を持ち、細工谷の学園内に居住しながら役割を果たして行くことになりました。学園・施設の働きだけではなく、教会活動(教会委員会、男子会、婦人会、日曜学校SS)でも、大阪教区からも注目をされ、また大阪市・府の社会事業関係者から、大阪地区のボーイスカウト部門や外部団体等からの期待も大きく、古田も出来るだけ積極的に応えようとしたようです。大阪聖ヨハネ教会の原教籍簿は1945年6月7日の大空襲で焼失して、戦後作成した新教籍簿には古田誠一郎・一子が記載されていますが、共に、神戸聖ミカエル教会からの転入籍記録は未記入です。

大阪聖ヨハネ教会が、1939(昭和14)年7月号まで発行していた

教会報「聖戦」誌を見ていくと、昭和6年7月に男子会の親睦会として、教会内でキャンピングの夕べを楽しみ、SSやその他の会で得意のお話やボーイスカウトの紹介なども行なっています。ヨハネ教会は日曜学校事業・児童伝道に力を入れており、その全盛期を迎えています。が、教会本校と細工谷の学園での桃山分校、信徒宅校の3校が、やがて一つにまとめられ、古田は分校主任から教頭に就任しています。

特に、SSの子供たちをレベル別に分け、屋外の活動や本格的野外キャンプなどに積極的に引張り出している様子が伺えます。キャンプ活動地は、六甲山麓、南海沿線助松の浜、紀州南部の海岸などですが、今は芦屋聖マルコ教会になつて旧芦屋聖使女学院(婦人伝道師養成所だった)から、近くの芦屋浜へ出かけているのも興味を引かれます。また、教区主催の日曜学校指導者のためのキャンピング講座や実習などにも、着任の夏から開催に関わったようです。

清水美穂子さん(1926・大正15年生まれ)は、古田の園長就任時、満5歳でした。古田の思い出として「私の子供の頃の記憶に残っているのは、聖ヨハネ学園の園長としてお父様と慕われておられた先生でした。日曜学校で、お話をして下

さるのが楽しみでした。とても面白くて、又お会いするのが、待ち遠しかったこと。お話しのお上手な「おぢさん」でした。昭和22年、高槻市の市長になられたこと、また、ボーイスカウトに力を入れておられたこと等覚えています。」と語ってくれました。

1932(昭和7)年大演習で来阪中の昭和天皇が、11月15日に甘露寺待従を聖ヨハネ学園に差し遣わすとの聖旨があり、来園の栄光に浴しました。柳原理事が学園歴史、古田園長が学園実情を説明後、施設の見学と児童遊戯の披露など光栄ある経験をしたことは、新施設完成を前に大きな励ましとなると同時に、当時の聖ヨハネ学園が試み、実践していた新しい児童救護活動や幼児育成事業が、時代の先端を行く内容であり、社会的に高く評価をされていたことを示しています。

1932(昭和7)年8月に着工した施設新築工事は、11月の本館に続き、翌5月完成竣工して内外に披露されました。当時最新鋭の設備内容の様子を、記念作製の小冊子「ようらん」で詳しく知ることが出来ます。工事費は28,625円85銭、その内約半分の14,233円47銭は各方面からの寄付金で、残額を聖バルナバ病院に約1000坪を売却して得た基本金(約10万円)より支出して

います。その他、1925(大正12)年に東成区(後の旭区)北清水町に購入した1200坪での高志寮など、学園は事業拡張政策をとるようになります。

しかし、施設はいかにあるべきかとジレンマ、悩みを抱えて迷う責任者古田の姿も見受けられます。それは「社会状況からして児童養護のニードが高く、多人数の収容が求められているが、創設者プールやチング長老が言ったように、精々30人程度に限ってこそ、担当者の気持ちに徹底すると自分は思う」という訴えに対し、八濱徳三郎氏は、「学園は、神の事業として、時代ごとに最も相応しい人を主任者に与えられてきたのだから、今は、自由に、ほんとに自由に、古田に腕を振るっていただきたい」とエールを贈っています。

柳原貞次郎牧師・理事は、古田が着任してからは、「実際、新鮮味が学園に溢れ、建物と云ひ、子供達の日常生活と云ひ、生き生きして居ます。夏のキャンプ生活もたしかに善い試みですよ。大胆な中に細心の注意を忘れずバズバズやっていく古田式には……」と評価を与え、運営に信頼を置いています。(「ようらん」より)

園長就任から7年、古田誠一郎は学園・教会・教区のみならず、大阪府・市の行政、その他にも溶け込み、地盤・地位を固めたことで自信を持

つ半面、社会事業に従事してきた経験を自己評価、改善する必要も感じていたようです。大阪府から委嘱されて1938(昭和13)年5月から8ヶ月間、渡欧外遊・社会事業視察の長期の旅に出ます。途中、古田の師久留島武彦ゆかりの、アンデルセンの生地デンマークのオーデンセを訪問したり、来日時に古田とBKでラジオ放送をした旧知の児童文学者、ヨーン・スウェンソン神父に会うためアイスランドまで遠出もしています。旅の別の目的は、ボーイスカウト関係では、国際カブ指導者会議、国際ワークキャンプ会議に日本代表として出席し、またギルウェル指導者実修所の幼年指導科と青年指導科の課程を受講し終了しています。

その頃、全国レベルの中央社会事業協会の理事にも就任するなど、1939(昭和14)年帰朝後は、各方面での講演その他に忙殺され、内外に存在と名が知られた堂々たる名士ぶりを発揮するようになっていったようです。

公的な場以外でも、古田は広く行動し、人脈を広げています。ラジオの中央放送局BK(今のNHK大阪放送局)で「子どもの時間」が始まります。その初代主任は、神戸でBS活動を始めた仲間、足立勤であり、この番組を軸に、彼や児童問題に関心を持って放送局や保育学校に顔を

出す仲間を集って1932(昭和7)年「児童教育研究会」が結成されます。また、当時の幼児教育界の指導者、倉橋惣三のアドバイスで「子どもと語る」という機関紙も発行して広がりを見せます。

☆集いのメンバーは以下の面々。  
江上フジ女史、長島せん(後の堀江光児司祭夫人)、村島文二元聖ヨハネ学園主事、後に早川電機、平安女学院事務長)と村島夫人(旧姓・大屋)、吉井悦三(後の京都・白川学園園長、脇田悦三)、村上幸雄、大塚喜一、小川格、長谷川黙念、岡部正則、白井彦四郎、本田義一、山北清次、小野直、奥野しげる、藤尾福雄、田中賢司、泉田行夫「テレビタレント」、大阪聖ヨハネ教会信徒、聖ヨハネ学

園に宿泊しながら帝塚山学院で教鞭を執り、この運動に尽くした」など。

古田は戦前、劇団「BKコードモサークル」にも所属し、「子供と家族の夕」「オハナシクラブ」で児童文学の朗読や童話劇の上演も行なっています。戦後には、ラジオ東京の子供向け番組「ちえのわくらぶ」の司会を務め、日本テレビ「暮らしのセンス」への出演などで、全国に顔を知られる存在となり、タレント活動を展開します。これらは、古田の若い時からの子供好きと多くの経験、久留島武彦の許での学びなどもたらした、神から授かった才能の開花ともいうべきではないかという気がします。そして、社会福祉の現場でも、子供たちに大きな喜び、安らぎ、

希望、力などを与えたと思われれます。渡欧から帰任して、古田は聖ヨハネ学園内部の機構と教育内容の改善および充実に鋭意努力したと述べていますが、社会状況は戦時体制への急速な傾斜、窮乏化する生活環境など、大きくかさ張ってくる種々の外圧・困難への対応に追われるようになっていったと考えられます。

その表れの一つが、太平洋戦争開始後に起こった青少年労働者宿舎「高志寮、192名収容(一説に129名)」の建設と事業開始であり、そして聖ヨハネ学園から高志学園への名称の強制変更であったと思われる。しかし、現状ではこれらの現象内容を知る資料を学園には見つけることができず、事実を裏付けることはできません。

「草詞藻集」からの抜粋には、「1941(昭和16)年の太平洋戦争の勃発そして激化に伴い、大阪市内の児童収容施設としては、疎開が必要と考える事態が迫ってきた。」という文の後に、以下のように短く記されているだけです。「以前に(1936・昭和11年)購入していた高槻の山林に、百姓屋を先ず1棟移築した。当面その周りにテントを張って移転を開始し、やがて元の園舎が強制疎開で解体された時、その建材を赤間文三府知事に交渉して無償払い下げを受け、舎屋を徐々に立て始

めた。完成を見たのは、終戦の前年昭和19年に入ってであった。」これが現在の高槻宮之川原へ移転の発端ですが、土地入手の経過状況は資料が無く、詳細が分かりません。

学園とはコインの表裏関係にある大阪聖ヨハネ教会は、大阪教区が日本聖公会を離脱してプロテスタント教会の集合体「日本基督教団」への合同を決議、1943(昭和18)年3月日本基督教団に加入、前年改称させられた「日本基督教団大阪丸の内教会」として1944年6月30日認可されるという状況でした。礼拝出席も激減し、学園を生み支えてきた教会婦人会や学園評議会は、実質的に機能停止だったかと思われます。そして、敗戦を前にした1945(昭和20)年6月7日の大阪大空襲で、礼拝堂・会館・牧師館すべてが焼失してしまい、戦争終了後の9月から、大阪市東区細工谷(聖ヨハネ学園の元の所在地)に立つ聖バルナバ病院礼拝堂を借用して、昭和25年12月の現聖堂再建まで礼拝や日曜学校、その他の宗教行事を行なうことになりました。高槻の学園と大阪の教会が、地理的にも離れて活動する時代へと入りました。

◀次のページからは、各施設より「私の職場の良いところ」について、紹介したいと思います。



五歳・十歳 園児と先生

## 聖ヨハネ学園

私は、児童養護施設聖ヨハネ学園で働かせていただき、今年で7年目になります。昨年度までは小学生男児の担当職員として関わらせていただき、今年度からは幼児フロアで小学生女児と幼稚園児たちのフロアリーダーとして関わらせていただいています。

私が思う職場の良いところは、職員が子どもたちの事を本当に好きで関わっていて子どもたちと温かい関係を築いているところだと思います。まず、私の職場では子どもたちは職員の事を「先生」と呼ばずに親しみをこめて名前に「兄(姉)」と愛称で呼んでおり近い距離で接しています。そして子どもたちは集団生活になるのでルールがあるのですが、職員と子ども間で聞いたことを共有したり、「子ども意見箱」という子どもの投書箱のようなシステムがあったり、子どもから要望があれば何とかなできないかを検討し、臨機応変に対応して要望を叶えられるところは叶えていく体制があります。そういった自由度が高く、子どもたちがのびのびと生活できる関係、環境をつくっていくこうとする職場の考え方がとても好きで働きやすいと感じてい

ます。

新型コロナウイルスが世間を騒がせており、子どもたちも窮屈な思いをしていることが多いので、何とか気持ちが出るようなケアをしていきたいと思っています。

(保育士 Iさん)



## 下田部保育園

下田部保育園では「私の職場の良いところ」をテーマに、職員にアンケートを取ってみました。

### 食

・季節の食材が豊富に使われ、様々な献立があり、子どもたちも職員も給食を楽しみにしている。

### 健康

・保健師が常にいるので、すぐ相談でき、迅速に対応することができ。

〈保育士、栄養士、保健師が連携を取り合い、子どもの健康を守っています〉

### 職員

・職員同士の仲が良く、お互いに思いやりがある。

・クラス関係なく助け合え、相談もしやすい。

### 施設・その他

・保育室が広く、おもちゃの種類も

豊富。

・園がきれいで、過ごしやすい。  
〈今年で新園舎になってから10年。今もきれいな園舎を保っています〉

ます〉

・楽しい行事(クリスマス会、夏祭り等)がたくさんある。

・周辺に公園があり、様々な自然を感じる事が出来る。

〈散歩に行く途中や公園などで季節の草花を観察したり、木の実を拾い、制作に使用したり楽しんでいきます〉

・地域の方々にも支えてもらっている。  
・福利厚生が充実しており、産前産後・育休がしっかり取れる。

〈出産をしても働き続ける女性が増えた中で安心につながります〉

\*このように、改めて保育園では、日々成長する子どもたちのエネルギーをもらい、職員も成長することができると感じています。

(栄養士 Yさん)

## ミス・ブール 記念ホーム

ミス・ブールでは、最近介護ロボットやIoTを複数導入しています。

例えば、ソフトバンク社の「Pepper」、荷物チェック「アプリ」、移乗介助用「リフト」などです。

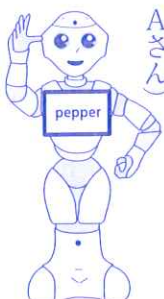
最初に導入された「リフト」につ

いて、ひと昔前までは「介護を機械に任せるなんて！」と否定的な考え方が主流でしたが、ご利用者の体格の変化やニーズの変化、重度化などにより、時代とともに考え方が変わり導入に結び付きました。

リフトの利点は一般的に「介護負担の軽減」ですが、他にも「ご利用者も安心して介助を受けられる事」、一人で介助ができるので「いつでも移乗ができる事」が挙げられ、ご利用者にとってのメリットも大きいように感じています。ミス・ブールの良いと思うところは、「ご利用者重視である事」「現場の意見が尊重される事」「人間関係がよい事」だと思います。介護ロボット一つをとっても、職員の「困った」の声から、改善に向けての導入が進められ、最終的にはご利用者の安心やご利用者にとって気楽な離床ができるものとして現場で活用されるなど、職員の考えの基本には常にご利用者優先があるのだと感じられます。

ちなみに、ミス・ブールに昨年4月に採用された「Pepper」のレクリエーションは大人気です。いつでも会いに来てくださいね。

(相談員 Aさん)



## ゆう・あいセンター

私の職場の良い所は『楽しさ』と『自分の存在価値』を与えてくれる所です。

ゆう・あいセンターは高槻市立障がい者福祉センターの愛称で、30年もの間、障がい者団体・ボランティアグループ・障がい当事者・警備員・行政職員、そして聖ヨハネ学園の職員と、それぞれの立場で関わり合う、人情と活気に溢れた一つの地域の様になっています。

近隣には、歴史資料館や約45ヘクタールある城跡公園・神社・教会など文化的な観光スポットも多く、移り変わりゆく季節を肌で感じる事が出来るので、ご利用者との外気浴にもよく利用しています。

センター主催のイベントは、福祉講演会や点字・点訳、手話、ボランティア養成の講習会。春と秋に開催される野外交流会・夏と冬のふれあいデー等、障がいという壁など存在しない、誰もが参加したくなる趣向を凝らした内容で開催されています。



\* \* \*

ゆう・あいセンターには、ご利用者や関係者とじっくりと関わる事で初めて味わえる『楽しさ』があり、様々な人の考え方や生き方に出会う事で自然と、多様性の理解が深まります。

日々の業務の中では困難な課題もありますが、それを乗り越えた先に新たな『自分の存在価値』を与えてくれる、良い職場です。

(介護福祉士 Yさん)

## うの花療育園

今回のテーマについて、いろいろな職種からアンケートを取り、まとめたものを紹介したいと思います。

【相談し合える関係・環境】  
【自分の意見が言いやすい】

「相談しやすい」が最も多く、「自分の意見を言いやすい」と続きました。「職種や勤続年数に関係なく相談できる」ので、「職員間の連携が取りやすくなり、子どもに向き合える時間を長く取ることができるといふ答えもありました。」

【優しく暖かい】

「職員が、子どもに対しても大人(職員同士)に対しても、優しく暖かい」「何事も親身に考え、愛があ

る」「自由、緩やか」「子どもへの

支援に対して、他の職種も柔軟に対応してくれる」からこそ、「職員の一人として、穏やかで優しい気持ちになれる」職場なのだ感じました。その他には、【給食が美味しい】フォローしてもらいやすく【有休がとりやすい】【長く勤めている職員が多い】とありました。

新型コロナウイルスへの対策で、揺れている時期であったにもかかわらず、このような結果が出たことに嬉しく思います。これからも、自分の意見を言いやすく、相談しやすい、お互いを思いやり、優しく穏やかな気持ちになれる職場であり続ける努力をしています。

(心理職 Nさん)



## 地域生活支援センター光

光の職員は皆さんとても優しいです。私は、東京の大学を卒業したあと、遠く離れた高槻へとやってきました。これまで働いてこられたのは職場で働く他の職員に助けられた点が大きいと感じています。

ご利用者の生活支援をする上で、職員の生活も同様に大切だとお互い

に思い合える環境はとても大切なものだと思います。ですので、仕事というものが自分の体調や生活、家族のためにあるという当たり前のことを当たり前のこととして認識し合える環境に感謝しています。自分の生活や家族が大変な時に、ご利用者にケアを提供することは簡単なことではありませんが、その理解があつてこそ、ご利用者やご家族の気持ちにも寄り添い、よりよいケアとサービスを提供できるのだと思います。

ご利用者も、光に初めて入所される時は、これまでと大きく違った環境に身を置くこととなり、私の比ではない不安を抱えることと思います。

そうした時に、私が実際に触れてきた親切やフォローを思い出し対応しています。光には優しさのバトンを繋いで築きあげてきた、いろいろな人を受け入れることのできるキャパシティがあります。それが、光の職場の良いところだと自信を持って言えます。(生活支援員 Yさん)

## 聖ヨハネ子どもセンター

聖ヨハネ子どもセンターコアラ教室は、ことばの遅れなど発達に課題のある子どもと保護者の方の療育、相談の教室です。

当教室では毎年保護者対象にアンケートを実施しています。昨年度のアンケートでは「コアラ教室に参加してよかった」が100%、中でも全員の方に「子どもが楽しんでいた」「子どもが成長した」「いろいろな相談できた」と回答いただきました。「子どもの成長」では特にコミュニケーションの広がりも多くの方に感じていただいています。

## 理事長の目々

理事長 野知卓司

この原稿を仕上げている4月21日の段階でも、国内外とも新型コロナウイルスの感染は衰えを見せず世界でも16万人を超えています。国内でも4月に入ってから感染者が急増し1万人を超えています。4月7日の緊急事態宣言後主要自治体で外出規制が行われ、娯楽施設などへの休業要請、多くの業種への協力要請が実施され、16日には全国に拡大されましたが、その後も事態の改善は認められず、5月連休明けまでにどれだけの効果を上げられるか。

そしてこの「ひびきあい42号」が皆様のお手元に届く6月初旬にどの

私たちは、子どもや保護者の方が「自分の感じた気持ちを出す」ということを大切にしています。子どもにとって自我が広がっていくこの時期、「感じた気持ちを出す」それを「共感的に受けとめてもらえる」とは、今後の人格形成や発達の土台となり、子どもたち自らの育つ力の高まりへとつながっていきます。安心して自分の気持ちを出せるよう、

ような状況になっているか予測もつきませんが、個人が忍耐強くなすべきことをなしてゆくしかありません。4月20日に臨時の施設長会を開き、各施設の状況を共有し、現時点で考えうる対応について話し合い、方向性を確認しました。

この問題の発生とともに感染症に関する情報、人間社会や文明に関する情報などが洪水のように溢れかえり、人間社会の行く末について又政治や経済、文明や科学技術への警鐘が論じられており、コロナウイルス禍が終息した後の地球世界のありようにも思いをはせてまいります。

4月11日(土)に2020年度1回目の安全衛生委員会を開きました。本館ホールで窓を開け、参加者の距離を2メートル近く離し、全員マスクを着用して密閉・密集・密着を防止して行いました。前回(2月29日)

小さなサインを一つひとつしっかり受け止め、共感していくこと、そのような視点が、私たちの職場の良いところだと思えます。

職員間においても、その時その時感じたことを自由に出し合い、それぞれの気持ちをお互いが尊重することを大事にしています。お互いの理解をより深め、よりよい療育に向かつて、高め合うことにつながっています。

に続き産業医仁科ドクターに感染症特に新型コロナウイルスについてお話しいただきました。先生は若いころに検疫官を経験された専門家であり、ご自分の経験と広い知見から貴重なお話をしていただきました。特に防御についてテレビなどの情報では話されていない具体的な方法をお聞きできました。今回は各施設の安全衛生情報はレジユメの文書によるものでしたが、これらを含めて発足して10年近くなるこの委員会の存在意義を改めて思いました。各施設の情報や法人全体で分かち合い活用し、職員の健康と安全を実現してゆくツールとして今後とも継続してゆかねばと思っています。

昨年の創立130周年で発表を予定していましたが間に合わなかった「聖ヨハネ学園総合整備計画の基本構想」が完成しました。この法人の

ると実感しています。これからも子どもや保護者の方の気持ちに寄り添った療育をしていけるよう職員一同、邁進していきたいと思います。

(心理職 Hさん)



歴史を紐解くとき先人たちがその時に将来の構想を立て、実現していた事がわかります。

丁度、児童養護と特養の建物が築40年から50年となり建て替えが近づいている時期であり、約16000㎡の敷地を総合的に整備するための基本構想を策定することを思い立ったのが中長期ビジョン活動を始めた2013年でした。着手が遅れ7年もかかってしまいましたが、「ご利用者とそのご家族、近隣地域の人たちそして職員や関係者が年齢・性別・障がいの有無に関係なくともに集い・支え合い楽しく生活する空間」として、起伏に富む地形を活用した構想を策定し、これを基本として具体的な計画を立て、2030年から2050年にかけて実施することを目指しています。どのような形で実現できるか楽しみです。

## ◎チャプレン室からのたより

### 同時代に生きた2人の宣教師の航跡を偲ぶ

ジョン・マキム主教(1852・7・17-1936・4・4)と  
 リーラ・プール先生(1846・3・15-1924・3・20)①

チャプレン 司祭 ショーシ林 正樹

「聖書には、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合つたらば、それによつてあなたがたが私の弟子であることが皆が知るようになる。」(ヨハネによる福音書13:34)という有名なイエス様のみ言葉があります。今年も4月4日(土)の午後、服部緑地の外国人墓地にある聖ヨハネ学園創設者・リーラ・プール宣教師の墓前で恒例の逝去記念礼拝を大阪聖ヨハネ教会と学園関係者で護りました。新型コロナウイルス感染症防止に配慮して野知理事長、米満事務局長、東敏勝理事(教会委員代表)とチャプレンを代表して私の4名で執り行いまし



ジョン・マキム主教

た。偶然でしょうか、この日は大阪聖ヨハネ教会の黎明期に、2代目牧師(1891-1894)として足跡を残された、アメリカ人宣教師・ジョン・マキム主教の逝去された日でもあります。3・4月の大阪教区教役者逝去者記念聖餐式(レクイエム)も新型コロナウイルス感染症防止のため余儀なく中止されました。ちなみに聖ヨハネ学園創設者リーラ・プール宣教師の逝去記念日は3月20日でした。

学園創立の原点について、昨年秋に京都で開催された『日本聖公会社会福祉連盟・第60回大会・研修会』で、西口 忠氏(桃山学院史料室・特別研究員、日本聖公会大阪教区歴史編集委員会・協力委員)から日本聖公会初代主教・C. M. ウイリアムス神父の働きに多くの日本聖公会社会福祉事業の源流を学びました。とりわけこの講演で新たな発見は、プール宣教師と同時代に活躍したアメリカ人聖公会宣教師・ジョン・マキム神父の存在であります。リー

ラ・プール先生は日本伝道を志願しますが、当時は年齢や健康状況のため反対されました。しかしウィリアムス主教引退後、大阪を中心に宣教活動をしていたアメリカ人聖公会宣教師・ジョン・マキム主教の要請があり来日が実現しました。今回は同時代のアメリカ人宣教師ジョン・マキム主教の航跡を回想します。

1852年、アメリカ東部マサチューセッツ州ピッツフィールドに生まれました。両親はスコットランド出身で、母メリー・アーンは信仰篤い徳の高い女性でした。神学校を卒業、司祭授手を受け教会に勤務しました。1881年アメリカ・ミッシン初期の日本伝道者が、母校の神学校での帰国演説に深く感動し日本伝道を決意しました。当時27歳の青年司祭ジョン・マキム師でした。

翌年に新婚のアンネ婦人と共に日本に赴任、来日するとすぐに東京築地にあつた聖パウロ学校(立教大学の前身)で教鞭をとりました。間もなく大阪に移り、聖アグネス学院(照暗女学校、平安女学院の前身)の一部屋をチャペルとして礼拝を始めました。同時期にティンゴ司祭は、川口居留地の英和学舎の新築をはじめ翌年(18

82年)5月には本格的な会堂として聖提摩太(テモテ)教会が完成しました。またマキム司祭は同年10月、大阪東区淡路町(現在の中央区)で最初の礼拝を開始、これが阿波座に移り聖慰主教会になりました。当時の大阪の宣教師はアメリカ聖公会・モリス司祭、ティンゴ司祭、マキム司祭、ランニング医師、エディ教師(女性)と英国聖公会(CMS)・ワレン司祭(帰国中)、エビントン司祭の7名でした。(次号に続く)

- 社会福祉法人 聖ヨハネ学園 (法人本部)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 TEL&FAX 072-687-0548
- 聖ヨハネ学園 (児童養護施設)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-0541 FAX 072-689-3623
  - 下田部保育園 (保育所)  
 〒569-0046 高槻市登町1番1号 ☎ 072-671-9960 FAX 072-673-8039
  - ミス・プール記念ホーム (特別養護老人ホーム/デイサービスセンター/ケアプランセンター/ヘルパーステーション/地域包括支援センター/エンゼル園)  
 〒569-1031 高槻市松が丘1丁目21番9号 ☎ 072-688-5138 FAX 072-688-4478
  - ゆう・あいセンター (高槻市事業受託/地域活動支援事業Ⅱ型・特定指定相談支援事業)  
 〒569-0075 高槻市城内町1番11号 ☎ 072-672-0267 FAX 072-661-3508
  - うの花療育園 (高槻市指定管理者事業・児童発達支援センター)  
 〒569-1131 高槻市郡家本町5番5号 ☎ 072-685-3803 FAX 072-685-3805
  - 地域生活支援センター光 (障がい者支援施設/放課後等デイサービス)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-680-1110 FAX 072-691-8300
  - 聖ヨハネ子どもセンター (高槻市乳幼児療育事業受託/児童発達支援/放課後等デイサービス事業/障がい児相談支援事業)  
 〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-7720 FAX 072-687-7722